

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2014年 第50週（12月8日～12月14日）

## ★お知らせ

### ○インフルエンザに注意して！

定点医療機関からの報告数は先週の0.25から0.50と増加しています。迅速診断結果では、全てインフルエンザウイルスA型が検出されています。また、第51週になりますが、今シーズン初めてインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告が高知市保健所、中央西福祉保健所管内の小中学校でありました。これから流行の時期になりますので、手洗い、うがい、咳エチケットを行い予防しましょう。また、ワクチンは発症予防効果と重症化予防の効果があるとされていますが、効果が期待できるのは、接種した2週間から5カ月程度までと考えられています。かかりつけ医と相談し早めに受けるようにしましょう。

### ○手足口病に注意して！

例年の流行時期は過ぎていますが、定点医療機関からの報告数は先週の2.77から3.80と増加し、注意報値を超えています。特に、須崎福祉保健所、高知市保健所管内では警報値を超えています。外から帰った後、食事の前、トイレの後に手洗いを行い予防しましょう。また、回復後2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けましょう。

### ○感染性胃腸炎に注意して！

定点医療機関からの報告数は先週の3.57から4.47と増加しています。この病気は、冬場に流行する代表的な感染症で、特に、ノロウイルスを原因とする場合、嘔吐・下痢・腹痛・発熱等の症状を引き起こします。ほとんどの方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄り等は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡する事があります。感染力は大変強く社会福祉施設や学校等集団生活の場で大規模な流行となることもあります。予防で最も大切なのは手を洗うことです。特に排便後、調理や食事の前には流水で十分に手を洗いましょう。

### ○流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）に注意して！

定点医療機関からの報告数は先週の0.33から0.83と増加しています。特に安芸福祉保健所管内では7.50と警報値を超えていますので、手洗い、うがいを励行しましょう。

## ★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		4.47	高知市、中央西、安芸、幡多で増加しています。
手足口病		3.80	須崎、高知市、中央東、中央西、安芸で増加し、須崎、高知市で警報値を、県全域及び中央東では注意報値を超えています。
RSウイルス感染症		2.07	中央西、中央東、幡多、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.73	幡多、安芸、中央東で増加しています。
水痘		0.87	高知市、須崎、中央東、幡多で増加しています。

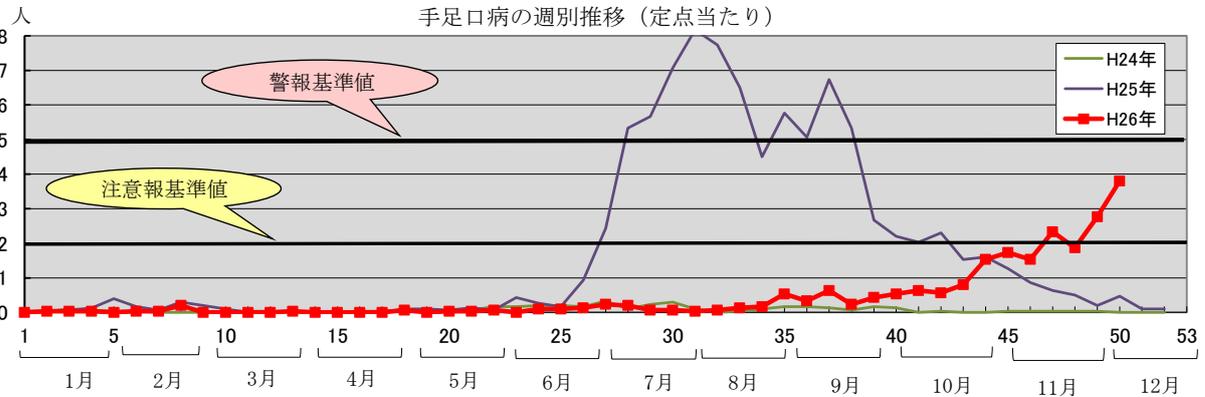
## ★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

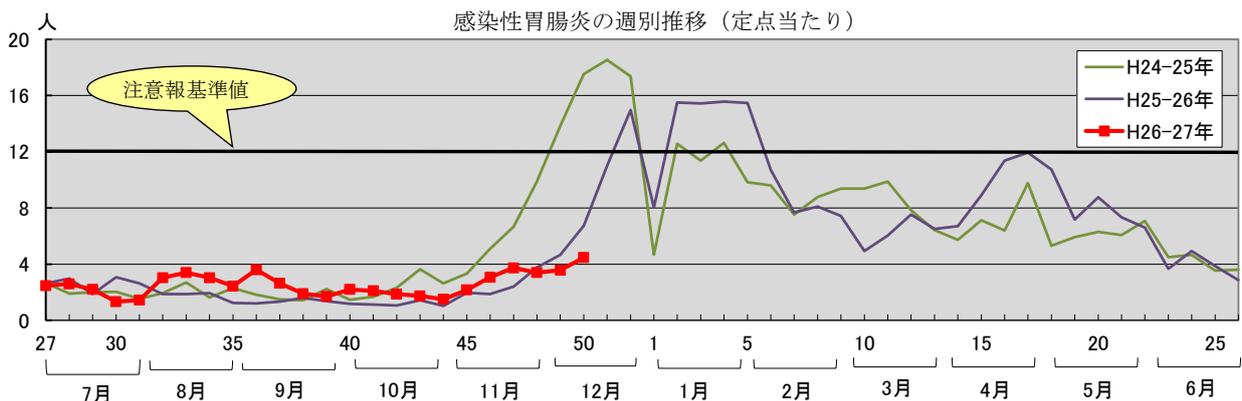
○手足口病：3.80（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.80（前週：2.77）と増加し注意報値を超えています。地域別にみると、須崎（6.00：前週 1.00）高知市（5.82：前週 5.27）中央東（4.57：前週 2.86）中央西（1.00：前週 0.33）安芸（0.50：前週 0.00）で増加し、須崎、高知市では警報値を、中央東では注意報値を超えています。年齢別にみると、患者の約 96%が 5 歳以下になっています。



○感染性胃腸炎：4.47（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.47（前週：3.57）と増加しています。地域別にみると、高知市（5.27：前週 2.64）中央西（3.67：前週 2.67）安芸（3.00：前週 2.50）幡多（1.40：前週 1.00）で増加しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	2	128	60 歳代 (男)	中央西
				90 歳代 (女)	
4 類	つつが虫病	1	3	60 歳代 (女)	中央東
	重症熱性血小板減少症候群	1	11	60 歳代 (女)	幡 多
5 類	梅 毒	1	4	30 歳代 (男)	高知市
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	40 歳代 (女)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	80 歳代 (女)	

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
50	インフルエンザ	52	男	須崎	Influenza virus A H3 NT

## ★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼの小児クリニック	インフルエンザウイルス A 型 1 例 (32 歳女) RS ウイルス感染症 2 例 (2 ヶ月、1 歳) アデノウイルス感染症 1 例 (5 ヶ月)
	おひさまこどもクリニック	RS ウイルス感染症 11 例 (3 ヶ月～2 歳：内、入院 1 例 3 ヶ月)
	高知大学医学部附属病院小児科	ノロウイルス腸炎 1 例 (11 ヶ月女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (8 歳男) カンピロバクター腸炎 1 例 (5 歳男) 病原性大腸菌 O-25+カンピロバクター腸炎 1 例 (9 歳女) アデノウイルス咽頭炎 4 例 (0 歳男、0、1、4 歳女)
	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 5 例 (3、5 ヶ月女、2 歳 2 人、4 歳男) ノロウイルス 1 例 (1 歳女) 病原性大腸菌 5 例 (0、3、4 ヶ月男、0、1 ヶ月女)
	細木病院小児科	48wカンピロバクター1例(1歳女) 49wサルモネラ1例(12歳女)
	ふないキッズクリニック	インフルエンザウイルス A 型 2 例 (兄妹、父親から感染)
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症 1 例 (2 歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1 例 (2 歳男：いの町)
須崎	もりはた小児科	手足口病の流行が続く

## ★全国情報

### 第48週 (11/24～11/30)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核268例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症22例

4類感染症：A型肝炎1例、つつが虫病15例、デング熱2例、レジオネラ症19例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例

急性脳炎4例、クリプトスポリジウム症1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例

後天性免疫不全症候群12例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例

侵襲性髄膜炎菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症25例、水痘（入院例に限る）5例、

梅毒15例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例、麻しん1例

報告遅れ：E型肝炎2例、エキノコックス症2例、日本紅斑熱2例、マラリア1例、ライム病1例、

レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症6例、急性脳炎2例、

劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘（入院例に限る）6例、

薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

## ★インフルエンザとRSウイルス感染症

現在、国内ではインフルエンザとRSウイルス感染症が流行している。ともに代表的な呼吸器ウイルス感染症であり、手洗い、咳エチケットといった対策を徹底することが大事である。本稿においては、報告に基づく直近の流行の概要を提供することを目的とした。

### インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物から手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。

2014/2015年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2014年第42週以降増加が続いている。2014年第48週（2014年11月24～30日：12月3日現在）の定点当たり報告数は1.90（患者報告数9,396）となり、全国的な流行開始の指標である1.00を初めて上回った。昨シーズンに比べ、3週間早い流行期入りとなり、過去

10年で2番目の早さとなっている。国内のインフルエンザの定点当たり報告数をみると、東日本を中心に、岩手県（10.52）、福島県（6.41）、埼玉県（5.05）、神奈川県（4.04）、東京都（3.62）の順となっており、46都道府県で前週の報告数よりも増加が見られた。全国の保健所地域で警報レベルを超えている都道府県は1箇所（1県）であり、注意報レベルを超えている保健所地域は8箇所（1道1都1府4県）であった。定点医療機関からの報告をもとに推計される累積の受診者数は、2014年第36週以降これまでに約19万人となった。基幹定点からのインフルエンザ患者の入院報告数は56例であり、第47週（38例）より増加した。23都道府県から報告があり、小児と高齢者が多く見られた。年齢別では0歳（4例）、1～9歳（19例）、10代（3例）、20代（1例）、30代（1例）、60代（3例）、70代（9例）、80歳以上（16例）であった。直近の5週間（2014年第44～48週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く、次いでAH1pdm09の順となり、B型は検出されていない。2014年9月以降に検出されたウイルスは、AH3亜型が大半を占めている。

### RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス（respiratory syncytial virus; RSV）を病原体とする乳幼児に多い急性の呼吸器感染症である。インフルエンザ同様、RSウイルスは飛沫および接触感染により伝播する。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%がRSウイルスの初感染を受けるが、初感染によって終生免疫は獲得されない。新生児・乳幼児、免疫不全者およびダウン症児等は重症化しやすい傾向があり、乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%がRSウイルス感染症であるとされる。予防手段としては、使用可能なワクチンはないが、早産児、慢性肺疾患や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、ヒト化抗RSV-F蛋白単クローン抗体（パリビズマブ）の適応がある。高齢者のRSウイルス感染症においてはインフルエンザと同程度の頻度で肺炎発症が認められる。

RSウイルス感染症の流行は、例年、季節性インフルエンザに先行して、夏頃より始まり秋に入り患者数が急増する。2014年も8月下旬から患者報告数が増加した。2014年第48週（2014年11月24～30日：12月3日現在）の患者報告数は5,495例に達し、3週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約68%を占めている。報告数の多かった上位5都道府県は、北から北海道、埼玉県、東京都、愛知県、大阪府であった。

インフルエンザの流行は今後さらに拡大し、ピークを迎えるとみられる。RSウイルス感染症も、例年年末をピークに春まで続く。また、インフルエンザの流行期間中、流行地域の拡大や流行しているインフルエンザウイルス亜型の割合が変化する事も有り、発生動向には注意が必要である。共に呼吸器ウイルス感染症であるインフルエンザとRSウイルス感染症の感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生といった対策を徹底することが大事である。インフルエンザに関しては、早めのインフルエンザワクチン接種も重要である。インフルエンザワクチンは一定程度の発症予防効果と重症化予防の効果があるとされており、高齢者は予防接種法上の定期接種の対象となっている。

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第50週 平成26年12月8日(月)～平成26年12月14日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第50週							計	前週	全国(49週)	高知県(50週末累計)		全国(49週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H25/12/30～H26/12/14				H25/12/30～H26/12/7			
インフルエンザ	インフルエンザ		1	2	13	5	1	2	24 ( 0.50)	12 ( 0.25)	17,192 ( 3.49)	10,852 ( 226.08)	1,499,797 ( 304.90)			
小児科	咽頭結膜熱			1				1	2 ( 0.07)	5 ( 0.17)	1,946 ( 0.62)	316 ( 10.53)	73,082 ( 23.25)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	6	27	3	2	12	52 ( 1.73)	47 ( 1.57)	8,894 ( 2.83)	1,030 ( 34.33)	278,419 ( 88.58)			
	感染性胃腸炎		6	43	58	11	9	7	134 ( 4.47)	107 ( 3.57)	30,326 ( 9.63)	8,577 ( 285.90)	901,819 ( 286.93)			
	水痘		1	6	12	1	2	4	26 ( 0.87)	21 ( 0.70)	3,844 ( 1.22)	1,414 ( 47.13)	146,239 ( 46.53)			
	手足口病		1	32	64	3	12	2	114 ( 3.80)	83 ( 2.77)	2,333 ( 0.74)	665 ( 22.17)	77,158 ( 24.55)			
	伝染性紅斑								( )	1 ( 0.03)	1,025 ( 0.33)	41 ( 1.37)	28,879 ( 9.19)			
	突発性発疹			3	10	1	2		16 ( 0.53)	16 ( 0.53)	1,614 ( 0.51)	685 ( 22.83)	83,871 ( 26.69)			
	百日咳								( )	1 ( 0.03)	27 ( 0.01)	14 ( 0.47)	1,959 ( 0.62)			
	ヘルパンギーナ								( )	4 ( 0.13)	287 ( 0.09)	915 ( 30.50)	136,497 ( 43.43)			
	流行性耳下腺炎		15	1	4	1		4	25 ( 0.83)	10 ( 0.33)	1,044 ( 0.33)	1,580 ( 52.67)	43,390 ( 13.81)			
RSウイルス感染症		2	17	22	12		9	62 ( 2.07)	60 ( 2.00)	6,851 ( 2.18)	895 ( 29.83)	78,383 ( 24.94)				
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	6 ( 0.01)	( )	387 ( 0.57)			
	流行性角結膜炎								( )	( )	410 ( 0.60)	28 ( 9.33)	19,085 ( 27.94)			
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	10 ( 0.02)	9 ( 1.13)	376 ( 0.79)			
	無菌性髄膜炎								( )	( )	16 ( 0.03)	18 ( 2.25)	858 ( 1.81)			
	マイコプラズマ肺炎			4					4 ( 0.50)	4 ( 0.50)	199 ( 0.42)	221 ( 27.63)	6,019 ( 12.70)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1	2				3 ( 0.38)	( )	5 ( 0.01)	24 ( 3.00)	301 ( 0.64)			
	感染性胃腸炎			1					1 ( 0.13)	( )	20 ( 0.04)	139 ( 17.38)	3,915 ( 8.26)			
計(小児科定点当たり人数)		28 ( 13.75)	113 ( 15.75)	216 ( 18.71)	37 ( 11.66)	29 ( 14.25)	40 ( 7.85)	463 ( 14.87)			76,049	27,423 ( 763.81)	3,380,434			
前週(小児科定点当たり人数)		16 ( 8.00)	87 ( 12.28)	186 ( 16.49)	31 ( 10.20)	22 ( 10.75)	29 ( 5.43)		371 ( 12.08)							

注 ( ) は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第50週							計	前週	全国(49週)	高知県(50週末累計)		全国(49週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H25/12/30～H26/12/14				H25/12/30～H26/12/7			
インフルエンザ	インフルエンザ		0.25	0.18	0.81	1.00	0.25	0.25	0.50	0.25	3.49	226.08	304.90			
小児科	咽頭結膜熱			0.14				0.07	0.17	0.62	10.53	23.25				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.00	0.86	2.45	1.00	1.00	2.40	1.73	1.57	2.83	34.33	88.58			
	感染性胃腸炎		3.00	6.14	5.27	3.67	4.50	1.40	4.47	3.57	9.63	285.90	286.93			
	水痘		0.50	0.86	1.09	0.33	1.00	0.80	0.87	0.70	1.22	47.13	46.53			
	手足口病		0.50	4.57	5.82	1.00	6.00	0.40	3.80	2.77	0.74	22.17	24.55			
	伝染性紅斑									0.03	0.33	1.37	9.19			
	突発性発疹			0.43	0.91	0.33	1.00		0.53	0.53	0.51	22.83	26.69			
	百日咳									0.03	0.01	0.47	0.62			
	ヘルパンギーナ									0.13	0.09	30.50	43.43			
	流行性耳下腺炎		7.50	0.14	0.36	0.33		0.80	0.83	0.33	0.33	52.67	13.81			
RSウイルス感染症		1.00	2.43	2.00	4.00		1.80	2.07	2.00	2.18	29.83	24.94				
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.57			
	流行性角結膜炎										0.60	9.33	27.94			
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	1.13	0.79			
	無菌性髄膜炎										0.03	2.25	1.81			
	マイコプラズマ肺炎			0.80					0.50	0.50	0.42	27.63	12.70			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1.00	0.40				0.38		0.01	3.00	0.64			
	感染性胃腸炎			1.00					0.13		0.04	17.38	8.26			
計(小児科定点当たり人数)		13.75	15.75	18.71	11.66	14.25	7.85	14.87			763.81					
前週(小児科定点当たり人数)		8.00	12.28	16.49	10.20	10.75	5.43		12.08							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869